お辞儀は顔の主観的魅力を飛躍的に向上させる

○大杉尚之¹・河原純一郎²

(¹ 東京大学大学院人文社会系研究科・² 中京大学心理学部)

キーワード：顔の魅力，お辞儀，

Japanese bowing increases facial attractiveness

Takayuki OSUGI¹, and Jun I. Kawahara²

(¹ The University of Tokyo, ² Chukyo University)

Key Words: facial attractiveness, Japanese bowing,

目 的

顔の魅力評価は、対称性や平均性など顔の構造的特徴に加えて社会的文脈情報の影響も受けることが知られている。これまでの研究では、大きく2つの社会的文脈情報が報告されている。一つは、接近や回避といった対象と自分との距離変化の情報である (e.g., Chen & Bargh, 1999)。ポジティブな評価対象と接近行動は結びつきやすく、ネガティブな評価対象と回避行動は結びつきやすいと考えられている。二つ目は視線など、対象と自分との向きの一致性の情報である (e.g., Kampe, et al., 2001)。視線は相手が関心の対象であることを示す情報であり、直視は逸視に比べて魅力が高く評定される。

本研究では、以上2つの社会的文脈情報の効果では説明できない新しい魅力規定因として、「お辞儀」が魅力に及ぼす影響について検討する。お辞儀は直立姿勢から上半身を前方に傾倒し元の位置に戻す動作であるが、一連の動作中に頭部の接近と回避、傾倒に伴う視線の変化による直視と逸視の過程が全て含まれている。これらが独立に魅力評価に作用するとき、接近と回避の効果、直視と逸視の効果が相互に打ち消され、魅力評価は向上しないと考えられる。これに対して、お辞儀の一連の動作そのものがポジティブな評価と結びつくのであれば、お辞儀条件では、魅力が向上すると考えられる。本研究では、お辞儀条件の魅力評定値を、後方に傾倒する仰け反り条件、静止したままの静止条件の2つの統制条件と比較した。

お辞儀条件 仰け反り条件 静止条件

図1 顔画像の提示条件ごとの刺激例

方 法

実験1では、18人、実験2では16人の男性が参加した。顔画像刺激は、高さが140cmの位置に取り付けられた液晶ディスプレイ上に提示された。実験参加者はディスプレイから75cm離れた位置で直立姿勢のまま画像を観察した。各刺激は仮想的な三次元空間上に画面と平行になるように提示され、刺激の下辺を軸の中心として前方および後方に25°傾き、元の角度に戻った。48枚の女性の顔写真刺激が実験に用いられた。静止条件のみを含めた予備実験を行い、平均的な魅力評定値が得られた女性の顔刺激を選別した。

各試行では、正立した顔画像が画面中央に1000ms提示された後、お辞儀条件では500msかけて前方に傾き、元の角度に500msかけて戻った。仰け反り条件は、画像が後方に傾く以外はお辞儀条件と同じであった。静止条件では画像は変化せ

ず、2000ms提示された。全ての条件で、その後にビーブ音が鳴り、さらに1500ms顔画像が提示された。このとき、実験1の参加者は直立したまま画像を見続けることが求められたのに対して、実験2の参加者は画像に対して会釈をすることが求められた。その後に魅力評定のためのスケール（魅力的でない：1から魅力的である：100まで）が顔画像の下に提示された。参加者の課題は、提示されている顔画像の魅力と一致する評定値をマウスクリックによって答えることであった。各顔画像は提示条件（お辞儀、仰け反り、静止）ごとに1回ずつ提示され、全部で144試行が行われた。

結 果

図1に実験1と実験2の平均魅力評定値を示す。どちらの実験でも、お辞儀条件の平均魅力評定値は仰け反り条件と静止条件に比べて約20%上昇した。実験ごとに提示条件に対しての分散分析の結果、どちらの実験においても提示条件の主効果が有意であった、実験1： $F(2,34) = 16.62, p < .01$ 、実験2： $F(2,30) = 13.27, p < .01$ 。Boferroni法による下位検定の結果、両実験において、お辞儀条件と仰け反り条件間、お辞儀条件と静止条件間に有意差が得られた ($ps < .05$)。また、両実験共に仰け反り条件と静止条件間に有意差が得られなかった。

考 察

実験の結果から、お辞儀条件は仰け反り条件や静止条件に比べて魅力評定値が高くなることが示された。お辞儀条件では接近-回避、直視-逸視の効果が相殺する条件であるにも関わらず魅力が飛躍的に向上した。仰け反り条件は、接近-回避、直視-逸視の過程が全て含まれている点ではお辞儀条件と同様であったが魅力は向上しなかった。このことからお辞儀条件における魅力の向上は、お辞儀という一連の動作とポジティブな評価との結びつきによって生じていると考えられる。

引用文献

- Chen, M., & Bargh, J. A. (1999). Nonconscious approach and avoidance behavioral consequences of the automatic evaluation effect. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 25, 215-224.
 Kampe, K.K., Frith, C.D., Dolan, R.J. & Frith, U. (2001). Reward value of attractiveness and gaze. *Nature*, 413, 589.